

Suma Tomogaoka 通信

教育実習生に聞く

兵庫県立須磨友が丘高等学校 総合学科推進部
令和6年度 第2号 7/18発行

5月27日から3週間の実習を終えました。学習活動だけでなく、文化祭への取り組みに参加するなど貴重な経験が出来たことと思います。実習生の皆さんに須磨友が丘での学びが、その後の学生生活にどのような影響があったかを振り返ってもらいました。

■ 産業社会と人間 や「課題研究」において、あなたが学んだことは何ですか？

- ・職場訪問では頌栄保育園に訪問しました。社会人としての在り方や働き方、そして先生方の何歳になっても学ぼうとする姿勢は、職場訪問に参加しないと学ぶことができないものだったので、とても良い経験になりました。
- ・私は「スポーツオノマトペ」について研究しました。研究を通して、自分で課題を見つけ、考え、人に伝える力を培いました。私は教師を目指す中で、スポーツについて学んだことを人に正しく伝える難しさを感じ、壁にもぶつかりながら、自分の言葉で伝えることを学びました。
- ・外部講師の方の講演では、専門的なお話から自分の将来の幅を広げ、経験的なお話からは過去を省みて自身のこれからの行動を変えるきっかけをもらうことができました。



回答・協力していただいた教育実習生のみなさん

■ 須磨友が丘高校での「総合学科」ならではの学びとは、どのようなものでしたか？

- ・総合学科の特色である選択授業の豊富さのおかげで、自分が学びたい、興味のある分野を学ぶことができました。私は怪我をすることが多かったため、その予防方法や対処法を専門授業から学ぶことができて良かったです。
- ・体験授業や専門知識を身につけられる選択科目を通して、将来のことについて深く学ぶことができました。また、外部に行くこともあるため、学校内では得られない経験をつむこともできました。スポーツⅠ・Ⅱの授業では、指導案を作成して実際に授業を行ったため、指導に必要なことをより実践的に学ぶことができました。

■ 須磨友が丘高校で経験したことが、大学に進学してからどのように活かされていますか？

- ・課題研究で、興味があったものを研究する過程で、調べる力やプレゼン力がつきました。現在、卒業論文を書いているので、課題研究で習ったことが役に立っています。
- ・課題研究で、自分で課題を設定し、それについて調べ、発表するという経験をしました。大学に進学してから、従来の高校のような授業は少なく、課題研究のような授業が多くなりました。暗記ではなく、課題を見つけて、その課題を調べるといって生かされています。
- ・自己選択すること。大学では常に自己選択の連続です。常に選択できる人生、楽しみましょう！

3年次 「課題研究Ⅱ」ゼミ内発表会

2年次から行ってきた各自の課題研究をパワーポイントにて発表しました。今年度は、4月から系列が混ざった新メンバーでゼミ活動を行ってきたので、ゼミ内発表会といえども、多様な内容で、お互いに楽しく興味の幅を刺激しあうことができました。相互評価し、各ゼミから代表生徒が選出され、7月16、17日に行われる全体発表会で3年次全員の前で発表をします。代表生徒たちは7分間の発表のために、本番の直前まで最善を尽くしてくれそうです。

<全体発表会にむけて代表生徒の声>

- ・パワポを作るのが難しかったけど、ゼミのみんなのパワポを見てたくさん工夫点を学べた。
- ・人前で話すのは本当に苦手だけど、練習するよい機会と思って取り組みたいです。
- ・2年次で1年間かけて行ってきた課題研究を学年全体の前で発表する機会を得ることができた。ゼミ内発表会でも改善点がたくさんできたので、ゼミの先生のアドバイスを受けながら見てくれる人が分かりやすいような発表をできるようにしていきたいと思う。
- ・他の人の発表を聞いて参考になることもあったので自分の発表に活かしたいです。たくさん練習してみんなに分かってもらえるようがんばります。



2年次 「課題研究Ⅰ」

4月11日の課題研究講演会を皮切りに、いよいよ本格的に各系列やゼミごとの研究が始まりました。ゼミごとにゼミメンバーの自己紹介、1年間の計画についての説明、図書館使用のガイダンスなどが行われたあと、研究テーマを決定するためのステップとして、自分の興味や関心の範囲を探る・広げるための「キーワードリスト」の作成や新聞記事を使ったグループワークなどを行いました。今年からは、「研究テーマを考えてくる」ことを春休みの課題として課していますが、やはり多くの生徒にとって研究テーマを具体的に決めていくことは難しいようで、テーマ決定につながるグループワークやゼミの先生との面談を重ね、アイデアの出し方や研究の方向性についてアドバイスを受けてはいるものの、なかなか具体的な方向に進んでいかない生徒も多く見受けられました。

ただ、テーマは変わっていくものなので、考え込みすぎず、立てた研究計画をもとにして「まずは動いてみる」「その都度軌道修正」という方法をとるのもありだと思います。失敗を恐れずに前進する勇気も必要です。

さて、夏休みに入りますが、この時期は課題研究を進める上では大変貴重な期間です。研究テーマをより具体的にするための先行研究・関連書籍のリサーチ、関連施設へのインタビュー、アンケート調査、実験・制作などを行い、研究を大きく前進させてください。そのために、事前に立てた研究計画が不十分と感じたら、迷わずに担当の先生に相談してください。

また、この夏休みに再度、課題研究の副教材としてみなさんが1年次に購入した『中高生からの論文入門』（講談社現代新書、小笠原喜康・片岡剛夫著）を開いて読んでみてください（意外と皆さんがこの本を読んでいないように思えます。この本はゼミの先生方も全員持っていますよ。配布されたときに「課題研究のテキストとして手元において繰り返し読んでください」と言われたのを思い出してくださいね）。



自分の課題の絞り方・論文の基礎単位「ピース」のつくり方・論文資料の集め方など、皆さんが論文作成に必要なことが丁寧に詳しく具体的に書かれています（みなさんが高校を卒業して進学・就職したあともいろいろなる場面でこの本は役立つことと思います）。必ず、夏休みの間に時間をかけて読んでおいてください。



1年次 「産業社会と人間」 一職業人講話一

5月24日に、10種もの職業人の方々を本校にお呼びし、職業に関する講演会を行いました。生徒は事前に、自分に向いている職業をキャリアプランニングの授業で知り、それを踏まえて、興味のある職業の話を行いました。「職業について」や「働くとは」、「やりがいとは」など、様々な話を聞き、今までの認識が変わったという生徒や、より詳しく知りたいと思う生徒など、今回の講演会で、各々気づきや発見があったように思います。

<生徒>の感想

- ・2つの仕事の講演会を聞いて、人とコミュニケーションをとることが共通していることが分かりました。ヨガインストラクターやダンサーは、人を楽しませるために、鍼灸院は患者さんを安心させるために必要だと聞きました。コミュニケーションをとることは、たくさんの目的があって、人のためになるということが分かりました。



パン職人



管理栄養士

- ・自分の夢を叶えるために仕事をするという話が印象に残りました。私も将来、自分の仕事に誇りをもって、楽しみながら仕事をして、自分の夢を叶えられるようにしたいです。



宮大工

1年次 「産業社会と人間」 一学問分野別講演会一

5月31日に、18大学20学部もの講師の方々を本校にお呼びし、学問別講演会を行いました。名前は知っていても何を学べるのか知らない大学や学部、そもそも名前を知らない大学・学部の話を聞き、以前までのイメージが変わったという生徒や、新しい学部に興味を持ったという生徒が多くみられました。生徒たちの将来への選択肢が、少しは広がったのではないかと感じます。

<生徒>の感想

- ・今回の講演会では、学部の紹介だけでなく、今の私たちがすべきことについて教えてもらいました。講演会を聞いて、今の私たちには、外国語の知識をつけることが必要だと感じました。そのためにも、日ごろからネイティブの発音に慣れることや、会話をすることで力がつくと考えました。



- ・今回の講義を聞いて、大学では、今の勉強の応用のようなことをしていて、とても驚いた。また、その学びを社会にどう活かすかを考えていて、大学は、ただ学ぶだけでなく、好きなものを研究・深掘りしていく場なんだとわかりました。

